

# 登山月報

第48回海外登山技術研究会	1
平成21年度登山技術研修会	2
平成21年度評議員会開催	4
東西南北・宮城岳連60周年	6
新連載 Mountain World 第16回	7
ブロック研修会ドーピング教育実施	8
JMA、寄贈図書	9
クロニクル・トークショーのお知らせ	12

## 第48回海外登山技術研究会を開催

国際委員長 青木 茂

平成22年2月10日(水)と11日(木・建国記念の日)の両日、国立オリンピック記念青少年総合センターの402号室に於いて、第48回海外登山技術研究会(略:海登研)を開催した。

10日の午後6時15分過ぎ、田中文男会長の挨拶を頂いた後、平成21年度海外登山奨励金交付登山隊3隊による報告が行われ、JAPAN KUNYANG CHISH EAST EXP.2009の山川剛司隊長を最初に、続いてGIRI GIRI BOYS スパンティック登山隊2009の天野和明隊員によるゴールデンピラー北西面の登頂報告と合わせて、同時期に同右ピラーを初登した韓国隊の金隊長と2名の隊員をゲストスピーカーに、スパンティック・ゴールデンピラー特集として報告会を行った。

また、冬季アラスカ山脈ハンター西陵2009の栗秋正寿氏からは、同峰へ再度の登山活動中とのこと

で、資料集へ書面に代えて報告して頂いた。

翌11日は、午前8時30分より、ヒマラヤ研究者による講演として、池田常道氏の「2009年のヒマラヤ登山」、そして、中村 保氏の「禁断の東チベット踏査行2009年」と題したスライドショーとお話しを拝聴し、さらに、登山隊報告として、大内尚樹氏の「知られざる四川省の岩登り対象」をテーマにしたスライドと報告、埼玉チョ・オユー登山プロジェクト2009の大山光一隊長による登頂報告と浅野勝己常任委員の「富士山を利用した短時間の高所トレーニングの成果」の発表、神戸大学・中国地質大学(武漢)合同カンリガルポ山群学術登山隊2009の井上達男隊長による白鷹の峰ロプチン(KG-2)6,805m初登頂などの素晴らしい報告が続き、最後に、日パトラベルの大住恵子氏から、貴重な資料によるパキスタンの海外最新登山情報をご提供頂いた。



キャンプ1(4890m)から見るロプチン峰(6805m)

資料集2冊には、勤労者山岳連盟分を含め18隊もの高峰登山報告と、特別寄稿として「この半世紀の海外登山を考える」江本嘉伸氏、「日本ヒマラヤ登山、新しい潮流」山森欣一氏、「日本山岳協会への提言」近藤幸夫氏の3氏の玉稿を綴ることが出来た。

器具の不調と限られた時間配分で、時間に追われる場面もあったが、78名の参加者と、お力添え頂いた講師の皆様、心より感謝の意を述べ、海登研の報告とする。



挨拶する青木委員長

## 平成21年度登攀技術研修会兼主任検定員養成講習会報告

期日 平成21年10月24日(土)～25日(日)

会場 熊本県 阿蘇青少年交流センター体育館

今回の研修会は、制動確保からセルフレスキューの他に、最近ハイキング等でおきている登山道からのチョットした転落などという事故を想定しての救出法として、プルアップの1/2を実施した。通常プルアップについては1/3が基本であるが、ハーネス等の登攀具を携行していない状況での事故を想定し、わずかな装備を駆使してできる1/2プルアップを実施した。

参加者は、登攀技術研修会17名、主任検定員養成講習会5名、日山協スタッフ5名の総勢27名となった。

二日間ともにあいにくの空模様となったが、熊本岳連の方々の格別のお取計らいで、二日間ともに体育館をお借りでき、熱気溢れる、登攀技術研修会及び主任検定員養成講習会となった。

### 《第1日目》

#### ◎ 研修会及び主任検定員養成講習会実技

##### I. 制動確保とセカンドの自己脱出

##### 【遭難内容の前提】

7ピッチのマルチピッチルートを50mダブル



制動確保、仮固定の研修

ロープで登攀中、2P目にリード者が約15m登った所で5m程墜落し、制動確保にて停止した。

声をかけたがダメージがあり返答が無い。確保者は状況が分からないので仮固定し、状況把握をする事にする。声をかけながら作業をしていると、仮固定が終了した時点で、意識が回復し反応があり、腕を強打した模様。ロープも25m以上残っているの、確保しているテラスに降ろすことにし、ローダウンする。

##### ◇ 制動確保と仮固定 — 手順 —

1. リード者が墜落→制動確保
2. 停止後、声をかける
3. 仮固定を始める(仮固定⇒テンションのかかっているロープ側で行う)
  - ①確保器具に仮固定し、両手が自由になる状態にする。
  - ②両手が自由になったら、テンションがかかっているロープ側にフリクションノットを作り、スリングとカラビナを利用してアンカーにかける。
  - ③フリクションノットが決まる事を確認する。
  - ④メインロープの確保者の残りのロープ側に仮固定をする。(ムンター+ミュール+カラビナ+支点)
  - ⑤①で作ったシステムを解除する。(フリクションノットの再度確認)
  - ⑥④で作ったシステムのミュールのみを解除①で作ったシステムの解除後のたるみをロープを手繰り、少しテンションがかかる所で再度ミュールを作る。  
＝システムの終了＝
  - ⑦ローダウンの開始は、徐々にフリクションノットを緩めていき、メインロープに全テンションをかける。フリクションノットが解除出来るようになったら解除する。
  - ⑧ミュールを外し、ムンターにてテラスまで降り、アンカーにセルフビレーを行う。ここで負傷者の応



懸垂下降時の仮固定

急手当をする。また、救助隊へ携帯電話等で救助要請をする。

## 《第2日目》

### ◎主任検定員養成講習会

#### 検定会

10/25 (日) AM9:00 ~ 11:00実技

初日に実施した、制動確保とセカンドの自己脱出を検定として実施。

### ◎研修会

①懸垂下降時の仮固定—エイト環を使用しての懸垂下降時における仮固定の実施。

②1/2システムによるプルアップ

クライミング中の事故であれば、ハーネス、クライミングロープ、各種スリング・カラビナ等必要な器具が揃っているため比較的その場で即対応がしやすいが、縦走中などに登山道から転落するなどといった事故に際しては、器具も少ない中での救出となるため、限られた器具で如何に安全で効率的に素早く救出できるか、ある程度の知識は必要になってくる。

転落者の引き上げについては、事故現場の状況によって左右されるが、一般的に救助側の数が多いほど有利になる。しかしながら、山中での事故を想定すると単に救助者の数のみが優位になるとは限らない。

足場が悪いという条件、手持ちの器具もごく僅かであるという条件の中での対処となる。ロープなし、カラビナなし、スリングなしではお手上げ状態である。そこで一つの案として、たとえ縦走であろうと、パーティーに1本は8mm程度の補助ロープのほかロッキングカラビナ2枚(内HMS型1)、ノーマル2枚、スリング60cm120cm180cm240cm等数本は持参したい。



2 : 1 (1/2) システムの実践

③転落者を登山道または安全な場所まで引き上げる方法

日頃から練習しておき事故が起こったパニック状態の中でも落ち着いて行動できるようしっかり身につけておく必要がある。

転落者を引き上げるには、転落者が自分で体にロープを巻き付けることができるなら、ロープを投げて渡す。できない場合には、誰かが横まで降りて行ってロープを直接結ぶか簡易ハーネスをセットしてロープと連結する。

引き上げ方にはいろいろな方法があり、ロープで引き上げるときに引っ張り上げる力を分割するのが2:1(1/2)、3:1(1/3)等のシステムである。アンカーにバックアップ(いわゆるストッパー)を取ることで、途中で引っ張る力が弱くなったり、離してもロープが下がったりすることはなく、途中で休むこともできる。

この方法をオートブロック・システムといい、引き上げ時に使うシステムである。

引き上げシステムは、少人数でも、装備がさほど無くても出来る代表的なものとして2 : 1 (1/2)、3 : 1 (1/3)が挙げられる。

**ネパールに行くなら、風の旅行社にお任せ下さい。**

元々はネパールから始まった風の旅行社。ネパールに支店も構えています。専門知識と経験で、皆様をがっちりサポートいたします。

**KAZE**

**株式会社 風の旅行社**

観光庁長官登録旅行業第1382号 日本旅行業協会(JATA)正会員  
総合旅行業務取扱管理者 原/小宮山

〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 1F.07ビル 6F  
TEL.0120-987-553 FAX.03-3228-5174  
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-25 ハービスPLAZA3F  
TEL.0120-987-803 FAX.06-6343-7518

URL <http://www.kaze-travel.co.jp/> e-mail [info@kaze-travel.co.jp](mailto:info@kaze-travel.co.jp)

# 平成21年度評議員会を開催

日時：平成22年2月21日(日) 10時33分～14時54分

会場：主婦会館プラザエフ4階シャトル

出席者：(評議員)

神山 健(北海道・代理)、服部一雄(青森)、武田勝栄(岩手)、浜田久晴(宮城)、田所洋一(茨城)、小林達也(群馬)、天野賢一(埼玉)、松元邦夫(東京)、水島彰治(神奈川)、諏訪恵一(新潟・代理)、大西 浩(長野)、開澤浩義(富山)、石森長博(石川)、渋谷好司(福井)、塩澤寿雄(静岡)、北村憲彦(愛知)、萩 真生(三重)、小木曾昭文(岐阜)、片岡幸一(滋賀)、福田義弘(大阪・代理)、古賀英年(兵庫)、藤本直民(奈良)、小坂秀巳(鳥取)、野津 治(島根)、妹尾東祐(岡山)、山田雅昭(広島)、岡本洋一(山口)、明上邦彦(香川・代理)、原 秀樹(徳島)、新田 優(愛媛)、宮崎良平(高知・代理)、山上 司(福岡)、庄野章直(佐賀)、下田泰義(長崎)、西本安幸(熊本)、原 勇人(大分)、古里亜夫(宮崎)、中尾敏宏(鹿児島)、上原賢次(沖縄)  
(常務理事・監事)

田中文男(会長)、内藤順造(副会長兼専務理事)、中島 龍(副会長)、神崎忠男(副会長)、本木總子(副会長)、仙石富英(普及)、相良忠磨(財政)、佐藤光由(広報)、西内 博(遭対)、永井 豊(指導)、長谷川茂(自然保護)、堀井昌子(医科学)、寺内丈行(競技)、青木 茂(海外)、谷口浩平(ジュニア・代理)

開 会：内藤副会長の挨拶で開会

評議員会成立の確認：在籍評議員47名のうち出席39名、委任7名、合計46名となり定足数を満たし成立

**田中会長挨拶(要旨)：**公益社団法人を目指すということは、事業の50%以上が公益目的事業として一般の方々に力を注がなければならない。中央競技団体として公益社団法人を目指していくべきと考えている。事業を成すには、財源の確立が必要で、共済事業の推進を含め様々な事を行ってきた。今年は創立50周年の節目を迎える。この節目に日山協の存在を多くの方々にとって頂くために様々な記念事業を計画した。「必要とされる組織」と掛け声をかけながらも山岳会は減少方向にある。平成14年の日山協加盟団体は1602団体だったが現在は1424団体と7年間で222団体が減少した。ついこの間までは中高年登山者ブームと云われてきましたが、そのブームには翳りが見えてきた。一方で若い人たちが少しずつ山に戻っ

てきている。と同時に登山界は多様化してきた。里山から8,000m峰までに競技登山が加わってきた。国体ばかりではなく、アイスクライミングや山岳スキー競技大会なども登場してきている。多くの県でトレイルランの大会が活発に行われるようになってきた。私共はこの問題に対してもきちんと対応していかなければならない。皆さんからのご意見を頂戴して少しでも前向きの方でもって日山協がどうあるべきか、考えていきたい。

**議長選出：**定款第25条に基づき評議員の中から田所洋一(茨城)、古賀英年(兵庫)を議長に選出。

**議事録署名人の選出：**定款第30条に基づき、大西浩氏(長野)、新田優氏(愛媛)を選出。

**議 事：**

## 第1号議案 平成21年度事業経過報告について

事前配布資料に共済会の加入者数、会費収入、振込手数料などの報告、スポーツクライミング上級指導員養成講習会の目的と21年度から23年度にかけての上級指導員養成講習会の予定について補足説明などがあり、報告通り承認された。

## 第2号議案 平成21年度会計経過報告について

相良常務理事より12月31日までの収支報告、補正予算、一般会計、特別会計の明細説明が報告された。神奈川・水島評議員から全体の収入及び支出の内訳が一目で判るような表示、5～10%位の差異になるような実際に即した予算立ての要望があった。長野・大西評議員から中高年安全登山指導者講習会の主管料について質問があり、未払いになっているので直ぐに対処したいと回答があった。また、少年少女登山教室事業について早いもの勝ちの解消の要望があった。鳥取・小坂評議員から年度当初事業計画にあった12月の高校生クライミング大会の取り止めについて中止になった経緯が伝わってこなかった。今後、そういう情報は必ず頂きたいとの要望があり、経緯説明と情報伝達の改善の回答があった。富山・開澤評議員から安全登山事業の助成についても早い者勝ちの是正の依頼があった。

岡山・妹尾評議員からルートセッター研修会に岡山から2名参加したが、未だに何の連絡も来ていない。これは受ければOKなのかという質問があり、4月4日の競技委員総会の承認を得て、結果を報告すると回答があった。また、岐阜・小木曾評議員からルートセッター研修会の難易度が非常に高く、半分位しか通らなかった。合否報せが来ますが、不合格者へ何が足らなかったのかコメントを添付して欲しいという要望があった。今後、コメントを検討す

ると回答があり、報告通り承認された。

### **第3号議案 平成22年度事業計画案について**

内藤副会長より議案書に基づいて予算編成方針及び事業計画原案について説明、各専門委員会の担当常務理事から補足説明があった。

東京・松元評議員から事業計画原案の「日山協独自の登山指導員制度の研究と養成を図る」について、既存の指導員制度とバッティングしないか、また養成を図ると言うことは既に何か出来上がっているのか質問があり、ハイキングの方を対象とした指導者、日体協の指導員制度とバッティングしない一般向けの日山協独自の指導員制度を考えているところで、まだ養成段階ではないと回答があった。松元評議員から今の指導員制度は、加盟団体に所属していないと受講できないので、未組織登山者のための指導員を養成して頂ければ事故防止に繋がると思う。その辺のところをもう少し考えて既存の指導員制度とかち合わない制度を研究して貰えればありがたいとの要望があった。宮崎・古里評議員からスポーツクライミングの指導教程を作って貰いたいとの要望があり、競技委員会と協議しながら極力早めにその辺の準備を進めていきたいと回答があった。

愛媛・新田評議員から山岳共済の申込用紙が3名連記になっていて扱いにくく非常に困っている。何とか1名用に改正できないかとの要望があり、検討するとの回答があった。

三重・萩評議員から三重県に横たわる鈴鹿山脈は京阪神から大勢のハイカーがやってきて遭難事故が続出している。岳連は財政的にも厳しく、救助出動の際の交通費も払っていない。地方岳連として救助活動にはどのように対処していけばよいのか質問があり、全山遭難協議会で議論したい、各県の遭難対策協議会で救助に出た時の日当など費用の目安を決めていただき、それらの費用は遭難を起こした人に請求する形を取った方がよい。山梨県の場合は警察が救助者に言ってくれる。愛媛・新田評議員から警察等の訓練に協力し、警察が独自救助できるようにしたなどのアドバイスがあり、提案通り承認された。

### **第4号議案 国民スポーツ登山振興基金特別積立金の取り崩しについて**

相良常務理事より国民スポーツ登山振興基金特別積立金の定期を取り崩して1100万円を50周年記念事業費として当てる提案説明がなされた。

東京・松元評議員からこの基金を作った時の趣旨は、顕著な登山をする方や少年少女登山教室など登山のために使うお金を基金として貯めようではないか、ということではなかったか。それを50周年記念事業に使うというのは目的が違うのではないかと

の質問があり、基金設立の趣旨は広く決められており問題ないと考えるとの回答があり、提案通り承認された。

### **第5号議案 平成22年度収支予算案について、提案通り承認された。**

### **第6号議案 公益社団法人化工程案について**

内藤副会長より諮問委員会の審議結果を受けて、日山協としては日本の登山界を担う団体として公益社団法人を目指す。移行期間ぎりぎりの平成25年12月1日から新公益法人としてスタートするため工程表を作成した。これらを検討するために「公益事業」、「会の構成」、「財政」のワーキング・グループを立ち上げ、キャップには副会長になって頂いた。是非、皆さんのお力をお借りしてこの難局を乗り切りたい。と説明され、提案通り承認された。

### **第7号議案 創立50周年記念事業募金及び事業計画案について**

内藤副会長から説明があり、山口・岡本評議員からこの案を岳連でコピーして配れ、と云うのはおかしな話で、金はかかるかも知れないが、日山協でコピーしたものを配ってほしいとまた、愛知・北村評議員から岳連としては日山協のスケジュールが知りたいので、PDFで送って貰いたいとの要望があり、送付するとの回答があり、提案通り承認された。

### **第8号議案 平成21年度理事会・臨時総会の予定について、異議無く承認**

### **第9号議案 日山協登録選手規程の改定案について**

内藤副会長に代わり中川事務局員から現行の登録選手規程が現状にそぐわなくなったので、必要最低限にまとめた改定案について説明され、一部文言訂正で承認

### **第10号議案 日山協ドーピング防止規程の改定案について、異議無く承認**

### **第11号議案 日本山岳グランプリ顕彰規程案について、異議無く承認**

### **第12号議案 平成22年度共済会事業案について、提案通り承認**

**報告事項:** 会長・副会長選考委員会、UIAA総会報告、日本山岳会の「山の日制定」について内藤副会長から経過報告の説明がなされた。

### **閉会の挨拶:**

ご報告にもありましたように次期会長・副会長選考委員会を設け、日山協を新しい方向にもっていきたいと思っております。会長の任期、定年制も含め新しい日山協を作っていくたい、この1年間は50周年記念事業があります。この1年間お付き合いを頂きまして少しでも形の整った50周年にして頂ければと思っております。

# 東西南北

# 宮城県山岳連盟 60周年記念式典開催



平成22年1月16日、宮城県山岳連盟は、仙台市内のホテルにおいて、創立60周年記念式典を開催した。

当日は、中島日本山岳協会副会長を始め東北各県山岳連盟・協会の会長、宮城県内の自治体の首長等関係各位を来賓に迎え、盛大に創立60周年を祝った。

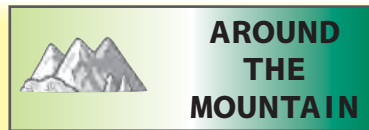
宮城県山岳連盟は昭和24年11月に発足し、平成12年に創立50周年記念行事を予定していた。しかし、翌13年に「新世紀・みやぎ国体」の開催を控えていたことにより50周年行事を見送り、今回の60周年記念式典等の開催となった。

宮城国体の開催は、近年の山形、福島、秋田と国

体開催が相次いだこともあって、当時の苦労や成就観等、思い出話の一つとして当日の参加者の大きな話題となっていた。

ところで、創立40周年から60周年までの20年間は、宮城県山岳連盟にとっては、国体開催、国体競技種目の変更への対応、加盟団体の減少、中高年登山者の増加等、時代の流れへの対応に迫られる20年間でもあった。

しかしながら、当日の参加者は、安全登山の啓蒙と普及、日本山岳協会、東北6県山岳連盟、宮城県山岳連盟並びに加盟団体の発展とを誓い合った。



## ■ホームページリニューアルのお知らせ

(社)日本山岳協会では、公式ホームページ刷新致しました。新ホームページのURLを合わせ、次の通り改めておりますのでご案内します。  
(新ホームページのURL)

<http://www.jma-sangaku.org/>

新ホームページへのリンクにつきましては、バナーを用意いたしております。詳細はホームページ上の「このサイトへのリンク」参照ください。

アウトドアスポーツ用  
GPSレシーバー

## ATLAS<sup>®</sup> ASG-1

販売価格  
14,800円(税込)

正確な位置情報があなたを助ける!

- 現在地の緯度・経度情報を表示
- 移動中の速度・高度・距離を表示
- 自動ログ機能搭載

移動ルートをパソコンに表示した  
地図(Google Maps<sup>™</sup>)上で確認できる!



株式会社 ユピテル 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33  
TEL 03-3769-2525 FAX 03-3769-2520  
お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで

<https://atlas.yupiteru.co.jp>

※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに入会(無料)し、直接購入もできます。

# 第16回 Mountain World

## ピオレドール・ノミネート 5隊が決まる

池田常道

昨年は日本からカランカ、カメットの二つのチームが受賞して話題を呼んだピオレドールの最終ノミネート5隊が発表された。最終的な選考結果は、4月7日から11日にシャモニとクールメイユールで行なわれる授賞式で発表されるが、ここでは候補に挙げた各登攀を紹介しようと思う。

審査にあたるメンバーは前年から一新され、前年度受賞者の谷口けいさんも日本から初めて審査委員会入りを果たした。委員長はヒマラヤのベテラン、アンドレイ・シュトレムフェリ（スロヴェニア）、以下ロベルト・シャウアー（オーストリア）、ジョルディ・コロミナス（スペイン）、谷口けい（日本）、ジャーナリストとしてMountain INFOのリンゼイ・グリフィン（イギリス）とMountain.ruのアンナ・ピウノヴァ（ロシア）という6人。

実行委員会の手によって、昨年度中に行なわれたおもな登攀52がリストアップされ、そのなかから以下の5つがノミネートされた。すべてアルパインスタイルによるものである。

\*

### (1) チョー・オユー（8201m）南東壁

カザフのデニス・ウルブコとボリス・デデシコが5月11日～15日、ネパール側から新ルートを登ったもの。下部のロックバンドではエイドクライミングが要求された困難な壁。ウルブコはこれで8000m峰×14座完登を達成した15人目のクライマーとなった。標高差2600m、6b、M6、

A2/3。

### (2) チャン・ヒマール（6750m）北壁

ウェッジ・ピーク（6802m）と呼ばれてきたカンチェンジュンガ山群のピーク。イギリスのニック・ブロックとアンディ・ハウスマンが10月29日～11月2日、北壁中央ピラーを初登攀した。2007年にスロヴェニア隊が試みて半分の高さまで達していた壁で、標高差1800m、M6。

### (3) 無名峰（6134m）南西壁

中国・四川省ミニヤコンカ山群、主峰の北西にあるピーク。ロシアのアレクサンドル・ルチキンとミハイル・ミハイロフが5月8日～13日、南西ピラーを経て初登頂した。標高差1100m、6c、75度。ルート名はCarte Blanche。この2人はマウント・エドガー（Eコンカ、6618m）南東壁を目指したが、悪天候のためこちらに変更したもの。

### (4) 雪蓮峰西稜6422m峰北壁

中国・新疆ウイグル自治区、アメリカのジェッド・ブラウン、カイル・デンプスターがブルース・ノーマンド（スコットランド）と共に8月26日～30日、雪蓮峰西稜の北面から6422mピークに突き上げるバットレスを初登攀した。標高差2650m、5.7R、M6、W15。The Great White Jade Heistと命名された。

### (5) ピク・ポベータ（6439m）北壁

天山山脈の最高峰。ロシアのグレブ・ソコロフとヴィタリー・ゴレリクが8月20日～29日、北壁の新ルートを登った。主峰と西峰（6918m）を結ぶ稜線に抜けるものだが頂上へは行かず、西峰を越えて下降している。標高差2400m、ED。

なお、日本からは一村文隆、鳴海玄希によるタウツェ（7501m）北壁の初登攀がリストアップされていたが、残念ながら最終候補には残れなかった。



アンドレイ・シュトレムフェリ

ロベルト・シャウアー

ジョルディ・コロミナス

谷口けい

リンゼイ・グリフィン

アンナ・ピウノヴァ

## 競技部ブロック研修会でドーピング教育、啓発を実施！

この度アンチ・ドーピング委員会は、競技部競技運営委員会の協力を得て、09年12月月から10年3月にかけて開催された競技部ブロック別研修会において、「私たちを取巻くドーピング状況」として研修を行ったので、その一部を報告したい。

なお日山協では、世界ドーピング防止規定(WADA規定)、日本ドーピング規定(JADA規定)および国際スポーツライミング協会規定(IFSC規定)に基づき「ドーピング防止規定」を制定し、その目的の一つである競技者支援要員への教育、啓発を図るものである。

この試みは、(財)アンチ・ドーピング機構(JADA)の全面的な協力のもとに行われた。

### 日山協も「防止規定」制定

ドーピング防止の目標は、スポーツの健全な発展でありそのためのドーピング防止検査(以下「検査」)には、「競技会検査(ICT)」と「競技会外検査(OOCT)」がある。日山協では、ジャパンカップ、ワールドカップ(Lead、Bouldering競技)などの競技会ではICTをほぼ実施し、一方競技会外検査は、世界を目指す選手を対象に(事前に申告された「居場所情報をもとに」)事前通告なしに練習会場や、自宅などを訪れ検査を実施する。この時に、不在の場合「検査拒否」となり「検査陽性」と同じ扱いとなるため、事前の居場所情報は慎重にしなければならない。

### 指導者、本人によるうっかりミスは許されない！

近年、実施検査数は4千～5千件を推移し、陽性事例も検査件数に比例し増加してきている。ちなみに陽性事例には、家族が購入した市販の風邪薬や二日酔いからの回復等を目的に本人が購入したサプリメントの服用まで、本人の明らかな過失に起因するものも含まれている。

### 国民体育大会での検査は？

さてこれらは通常の検査方法で、国民体育大会(以下「国体」)では違った方法となる。その点について詳しく説明してみたい。

国体はご存知のように、(財)日本体育協会(以下「日体協」)、中央競技団体、開催都道府県が主催する。

そのため検査自体も、日体協の主導でJADAと連携を図りながら実施される。

昨年開催された「第64回新潟国体」では、ICT16競技159検体(男105女54)、OOCT16競技50検体(男41女9)合計209検体(男146女63)が実施され、いずれも「陽性判定」事例はなかった。OOCTにおいては、「少年種別」が対象となったのが特筆される。山岳競技では検査の実施はなかった。

ICTは競技上位入賞者が対象となり、日本記録など新記録が出れば確実に検査対象者となる。

競技終了後、直ちに対象選手へ「検査通告」がシャペロンという通告者によって行われる。

表彰式などがある場合は、終了後速やかに「検査室」へ出向く義務を負っている。この時、未成年者には必ず成人の付添人1名が必要で監督、コーチ等で事前の調整が必要だ。また、成年であっても付添人1名の同行は可能である。不安がある場合は、同行を求めるのがベターだ。

OOCT対象者は、事前に都道府県体協より対象候補者が選定された名簿が日体協に提出され、その後国体競技練習会場や宿泊地を考慮し、最終的に検査対象者の決定がなされる。

ICT、OOCTいずれも、JADA作成冊子「アンチ・ドーピング手帳」を身分証明書として常に携帯しておく必要がある。未成年者の場合は、保護者の同意署名と捺印が必要になる。また、未成年を問わず写真の貼付や本人の署名と捺印も必要となるので、その点怠らないよう監督、コーチは選手への指導が必要だ。

### 注射、投薬等での「TUE申請」

なお、日常や急な病気による注射、投薬等を行っている場合は、国体競技会の30日前までに「TUE申請」がJADAに対して必要となってくる。この申請により、陽性結果となっても場合によっては制裁を免れることがあるが、投薬等を受ける場合は必ず医師、薬剤師に「検査を受ける可能性がある」旨、診察時や処方時等において申告することを勧めたい。詳しくは、JADA・HPを参考にされたい。

### スポーツ精神の高揚を目指す

最近の事例で、06年の自転車のツール・ド・フランスでドーピング違反のため総合優勝をなく奪われた選手(米国)が、フランスの反ドーピング研究所のコンピューターに侵入した疑いで国際手配されるという、事件が発生した。

ドーピング違反自体、多くの人たちの希望と勇気が失望へととなりさらには、罪を犯すことによって公平なスポーツへの疑念となることは残念だ。

私たちアンチ・ドーピング委員会は、JADAを始めとして関係機関と連携しながら、WADA規定IFSC防止規則の基本原則である、「ドーピング防止プログラムの目標は、スポーツ固有の価値を保護することである。

これは、『スポーツ精神』と呼ばれ、オリンピック精神の真髄である。スポーツ精神は、人間の魂、身体及び心を祝福するものであり、倫理観、フェアプレーと誠意、健康、優れた競技能力、人格と教育、楽しみと喜び、チームワーク、献身と真摯な取組、規則・法律を尊重する姿勢、自分自身と他の参加者を尊重する姿勢、勇気、共同体意識と連帯意識」を、競技登山のみならず一般登山にも共通する普遍的な精神として、更なる高揚に向けた取組みを目指すものである。

(アンチ・ドーピング委員会常任委員 西原斗司男)





平成21年度2月(22年2月)  
常務理事会議事録

日時 2月4日(水) 17:30 ~ 21:15  
場所 岸記念体育会館103会議室  
出席者 田中会長、内藤副会長、  
中島副会長、神崎副会長、本木  
副会長、西内、高山、堀井、尾  
形、相良、寺内、永井、長谷川  
各常務理事、谷口  
委任 仙石、佐藤、青木、北山  
常務理事(17名中13名出席)

1. 専門委員会動静

1月常務理事会以降  
(1月8日~2月3日)

〔報告〕

- (1)海外委員会 1月12日(火)  
出席者8名  
ア 50周年記念事業について  
JAC海外委員会との共催事業に  
ついて  
3月9日(火)にJACとJMAの合同  
委員会を開催  
イ 第23回海外女性懇談会(谷  
口けい講演会)の反省について  
講師の魅力と告知の効果により  
91名の参加があり、成功裏で  
あった。  
次回は、50周年記念事業の海  
外登山「クロニクル・トークショ  
ウ」(12/5)に女性ゲストを迎  
えて第24回海外女性懇談会を  
兼ねた講演会とする  
予定講師として北極点を目指す  
続素代さんを考えたい(成功す  
れば女性初3極点到達となる)  
ウ 第48回海外登山技術研究会  
について

- 2月10日15時:事務局集合  
資料集、演題作成(青木)、名簿・  
名札(澤田)
- (2)広報委員会 1月14日(水)  
出席者7名  
ア 登山月報2月号の内容について
- (3)普及委員会 1月14日(水)  
出席者7名  
ア ジュニア登山教室について  
・ポスター等の検討  
・登山研修所との共催について協議  
イ 中高年安全登山指導者講習会  
について  
・登山研修所との調整内容、今後  
の予定等
- (4)選手強化委員会 1月14日(水)  
出席者3名  
ア 平成22年度事業計画について  
・日本代表の派遣方針  
・ユース日本代表の派遣方針  
・選手サポートの方針
- (5)競技委員会 1月15日(木)  
出席者18名  
ア 1月常務理事会報告  
イ 第6回アイスクライミング・ジャ  
パンカップの進捗状況について  
ウ 第6回山岳スキー競技大会の  
進捗状況について  
エ 国体後催員の準備状況について  
・千葉:1/13に印西市松山下公  
園総合体育館を視察。リード壁  
ほぼ完成したが  
問題点発覚。体育館内なので  
ルートセット時にタワー、リフ  
トどちらが有効か。  
・その他後催員については特になし。
- オ 平成22年度競技委員会予算  
案の確認について  
カ 千葉国体山岳競技におけるト  
レーナーの参加把握方法、予備  
選手の宿泊について  
キ 今後のブロック研修会後の競  
技運営委員・C級クライミング

- 審判員の認定登録方法について  
ク 日山協競技委員会ブロック別  
研修会で使用する資料の確認
- (6)自然保護委員会 1月16日(木)  
出席者12名  
ア 平成22年、23年度「自然保  
護委員会活動」実施に向けた取  
り組みについて  
イ 大台ヶ原における日本じか個  
体数調査に関わる試験の実施状  
況について  
ウ 50周年記念事業に向けた取  
り組みについて  
エ トレイル・ランについて  
オ 野生鳥獣目撃リポートについ  
て、取り組みの充実について  
カ 平成21年度「自然保護委員  
会活動」の反省及び次年度の強  
化策について
- キ 報告事項  
・6団体協議会の報告  
・第11回尾瀬フォーラムの報告  
・尾瀬高校総合発表会の報告  
・自然公園指導員懇談会の報告
- (7)医科学委員会 1月16日(木)  
出席者9名  
ア UIAA MedCom meeting(カト  
マンズ、11月)の参加報告  
イ ICAR 2009 meeting(ツェル  
マット、9月)の参加報告  
ウ 国際山岳認定医:日本登山医  
学会が認定医委員会を立ち上げ  
て認定のためのプログラムを作  
成し英国のDr.John Ellertonに  
送付すると共に、JMA遭難対策  
委員会、指導委員会などへの協  
力を依頼し、承認された。
- エ UIAA MedCom Official  
Standards Vol.1 ~ 13の邦訳を  
JMA,JSMのWebsiteに掲載し、  
併せてUIAAのWebsiteにも載せ  
る件を確認。
- オ クライマーに対する医科学サ

寄贈図書

●寄贈本●

財団法人日本弓道連盟創立60周年記念誌

●雑誌●

東京新聞出版局岳人 3月号  
山と溪谷社 山と溪谷 3月号

でこでこっぺん  
中国登山協会 山野

●会報●

財団法人健康体力づくり事業財団  
兵庫県山岳連盟  
財団法人国立スポーツ科学センター  
大阪青雲会  
日本フリークライミング協会  
新潟県山岳協会

財団法人日本ゲートボール連合  
財団法人大阪市スポーツ・みどり振興協会  
神奈川県山岳連盟  
韓国山岳会  
財団法人日本武術太極拳連盟  
高校生新聞社  
横浜山岳会  
財団法人日本体育協会  
日本労働者山岳連盟  
スペイン FEDME

財団法人山岳会  
埼玉県山岳連盟  
東京野歩路会  
日本オリンピック協会  
近畿山岳愛好会  
韓国山岳連盟  
東京野歩路会  
福岡山の会  
日本山岳写真協会  
財団法人橋観光コンベンション協会

# あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、  
年間遭難者数は約2,000人です。

## ■平成20年 山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日)

発生件数 **1,631** 件

遭難者数 **1,933** 人

死者・行方不明者 **281** 人

詳しくは → [www.jma-sangaku.org](http://www.jma-sangaku.org)

お問い合わせは

**日本山岳協会 山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707  
TEL：03-5958-3396 FAX：03-5958-3397  
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ポート活動報告  
 カ 「NPO富士山測候所を活用する会」活動報告  
 キ UIAA MedCom の新たなテーマ「非白人と高所」を当医科学委員会が担当することを確認。取りまとめ役は、松林委員にお願いする。  
 (8)指導委員会 1月18日(月)  
 出席者12名  
 ア 1月常務理事会報告  
 ・50周年記念事業と2013年までの中期計画について  
 ・スポーツクライミング検定評価会議について  
 イ 平成22年度事業計画と収支予算について  
 ウ 氷雪技術研修会・主任検定員養成について  
 大 山：2/27～28、瀧根富士山：3/20～22、切嶋  
 エ 委員会事前研修会について  
 谷川岳 1/30～31  
 オ 山口県養成講習会申請書について  
 カ 愛知・宮城県指導員資格更新について  
 キ 熊本県講習会報告について  
 (9)遭難対策委員会 1月20日(水)  
 出席者8名  
 ア 冬山レスキュー講習会についての確認  
 ①参加講師、スタッフの集合  
 1月29日(金)8時30分  
 土合山の家  
 ②購入装備他について  
 ③その他  
 講師養成のための研修会も実現に向けて検討していく件、ほか。  
 イ シンポジウム「トムラウシ遭難事故を考える」について  
 2月27日(土)13:00～  
 神戸市王子動物園ホール  
 山岳団体から見た疑問点として日山協・西内委員長がパネラーとして発表  
 ウ 平成22年度事業計画について  
 事業費予算1,710千円を計上予定。主な事業は21年を踏襲。新規事業としてUIAA登山標準の調査を実施予定。  
 50周年記念事業として「UIAA登山委員長ステイブ・ロ

ング氏講演会」と「安全登山の講演と映画」  
 レスキュー講習会は、TOTO助成金を得て2回実施の予定。  
 エ 平成22年度遭対委員総会について 6月26日(土)～27日(日)  
 神奈川県  
 ※総会前に常任委員会議を開催  
 4月10日(土)～11日(日) 埼玉

## 2. その他の重要事項 (1月8日～2月3日)

### 【報告】

- (1)自然公園指導員懇談会 1月8日(金)  
 於：(財)国立公園協会  
 松隈事務局
- (2)平成21年度アスレティックトレーナー連絡会議 1月10日(日)  
 於：岸記念体育会館  
 中川事務局
- (3)アマチュアスポーツ新春懇談会 1月13日(水)  
 於：NHK本館 田中会長
- (4)中高年安全登山指導者講習会打合わせ 1月14日(木)  
 於：岸記念体育会館 長登登山研修所々長、本木副会長、仙石、尾形常務理事
- (5)JOC競技団体評価基準(改訂)に伴う説明会 1月15日(金)  
 於：岸記念体育会館  
 尾形常務理事、中川事務局
- (6)平成21年度第3回競技団体連絡会議兼競技者支援要員向けドーピング研修会 1月15日(金)  
 於：味の素ナショナルトレーニングセンター 中川事務局
- (7)「山の日制定」打合わせ 1月16日(土)  
 於：アルカディア市ヶ谷  
 田中会長、内藤、神崎、本木副会長、尾形常務理事、JAC:尾上会長、藤本、宮崎副会長、成川、岡部常務理事
- (8)2010年新春懇談会 1月16日(土)  
 於：アルカディア市ヶ谷  
 田中会長ほか137名参加
- (9)宮城県山岳連盟創立60周年記念祝賀会 1月16日(土)  
 於：仙台市「ホテル白萩」  
 中島副会長
- (10)映画「アイガー北壁」打合わせ 1月19日(火)  
 於：事務局 東映エージェンシー

- 泉谷課長ら5名、尾形常務理事  
 (11)第59回日本スポーツ賞表彰式 1月21日(木)  
 於：ホテルニューオータニ  
 青木、尾形常務理事  
 (12)中高年安全登山指導者講習会打合わせ 1月22日(金)  
 於：岸記念体育会館 尾形常務理事、長登登山研修所所長  
 (13)第6回JISSスポーツ科学会議 1月23日(土)  
 於：国立スポーツ科学センター  
 中川事務局  
 (14)平成22年度中高年安全登山指導者講習会連絡会議 1月25日(月)  
 於：岸記念体育会館  
 内藤、本木副会長、西内、仙石、尾形常務理事、国立登山研修所：長門所長、高嶋、渡辺(栃木)、大西(長野)、後藤(大分)、小宮山(山梨)、山田、岡谷、野島(広島)  
 (15)平成22年度予算会議 1月26日(火)  
 於：事務局内藤副会長、相良、尾形常務理事  
 (16)日本山岳ガイド協会との打合わせ 1月26日(火)  
 於：岸記念体育会館 田中会長、内藤副会長、尾形常務理事、JMGA・磯野専務理事  
 (17)三役会議 1月26日(火)  
 於：岸記念体育会館  
 田中会長、内藤、中島、神崎、本木副会長、尾形常務理事  
 (18)携帯電話での登山届システム打合わせ 1月28日(木)  
 於：事務局  
 中川事務局、廣川常任員、アンリミテッド社・長妻部長  
 (19)積雪期レスキュー講習会 1月29日(金)～31日(日)  
 於：谷川岳・土合山の家 参加者58名(受講者42名)  
 (20)指導常任委員研修会 1月30日(土)～31日(日)  
 於：谷川岳山岳資料館  
 参加者11名

## 3. 議事

- (1)平成21年度1月常務理事会議事録の承認について(1箇所2字抹消で承認)
- (2)平成21年度事業経過報告案に

# (社)日本山岳協会創立50周年記念 海外登山隊「クロニクル・トークショー」

## 1. 春編 The EVEREST Day

### — 日本人エベレスト初登頂記念フォーラム —

期日：2010年4月24日(土)14時～17時  
会場：国立オリンピック青少年センター  
東京都渋谷区代々木神園町3-1  
主催：(社)日本山岳協会、(社)日本山岳会  
後援：毎日新聞社

主管：(社)日本山岳会海外委員会

日程：トーク&スライド

「エベレスト—わたしの挑戦—」

- ①松浦輝夫（日本人エベレスト初登頂者）
- ②田部井淳子（世界女子エベレスト初登頂者）
- ③渡邊玉枝（女子世界最高齢登頂者）
- ④大塚博美他エベレスト登山隊関係者

懇親会

- について（1部訂正で承認）
- (3)平成21年度会計経過報告案について（提案通り承認）
- (4)平成22年度事業計画原案について（2/10までに修正して評議員会に提案することで承認）
- (5)平成22年度収支予算原案について（一部修正で承認）
- (6)平成21年度評議員会議事案について（提案通り承認）
- (7)公益社団法人化工程案及び検討小委員会の発足について
- (8)第2回理事会・臨時総会の開催について（提案通り承認）
- (9)平成23年叙勲及び褒章候補者の推薦について（田中会長を推薦する事で承認）
- (10)第5回「日本スポーツグランプリ」候補者の推薦について（該当者なしで承認）
- (11)平成22年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦について
- (12)自然公園全国ふれあい全国大会における自然公園関係功労者環境大臣表彰の候補者推薦
- (13)個人賛助会員（参与）の推薦について（北海道岳連1名、群馬岳連4名の賛助会員申込みを承認）
- (14)日山協登録選手規程の改定案について（評議員会に方向性を説明して規程改定案を提示することを承認）
- (15)ドーピング防止規程の改定案について（提案通り承認）
- (16)日本山岳グランプリ顕彰規程案について（提案通り承認）
- (17)50周年記念事業募金及び事業計画案について（提案通り承認）

- (18)2010全国高等学校クライミング選抜大会案について（50周年記念事業として開催することを承認）
- (19)その他
- (20)報告事項
  - ア 新春懇談会報告
  - イ 平成22年度山岳共済会山岳遭難・捜索保険、山岳共済会契について
  - ウ 平成21年度アスレティックトレーナー連絡会議報告
  - エ 平成21年度第3回競技団体連絡会議兼競技者支援要員向けドーピング防止研修会報告
  - オ 第6回JISSスポーツ科学会議報告
  - カ IFSC ACC スポーツデパートメントミーティング報告
  - キ 積雪期レスキュー講習会（東部地区）報告

## 4. 役員等の派遣について

- (1)日本勤労者山岳連盟第29回総会 2月20日(土)  
於：晴海グランドホテル  
田中会長
- (2)平成22年度JOCジュニアオリンピックカップ大会打合わせ 2月20日(土)  
於：富山県南砺市  
中川事務局員
- (3)50周年記念パルドール・ピーク登山隊打合わせ 2月27日(土)～28日(日)  
於：谷川岳・土合  
尾形常務理事、八木原罔明隊長ほか参加者
- (4)冰雪技術研修会兼主任検定員養成講習会 2月27日(土)～28日(日)

- 於：大 山  
鈴木（由） 常任委員他5名
- (5)神奈川大学7大陸最高峰登山達成記念祝賀会 2月28日(日)  
於：横浜・ランドマークタワー、ロイヤルパーク・ホテル  
田中会長、堀井常務理事
- (6)平成21年度スポーツドクター代表者協議会 3月6日(土)  
於：岸記念体育会館  
（未定、後日連絡）
- (7)平成21年度日山協競技委員会ブロック研修会 3月6日(土)～7日(日)  
於：九州ブロック（鹿児島）  
高山常務理事、安形常任委員
- (8)財スポーツ安全協会第101回評議員会・第103回理事会 3月10日(水)  
於：東海大校友会館「富士の間」  
田中会長
- (9)冰雪技術研修会兼主任検定員養成講習会 3月20日(土)～22日(月)  
於：富士山 永井常務理事他5名
- (10)第30回日本登山医学会 5月8日(土)～9日(日)  
於：群馬県みなかみ町・水上館  
谷川ホール 田中会長

### 登山月報 第492号

定 価 100円（送料別）  
 予約年間1、200円送料共  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 （毎月1回15日発行）  
 発行日 平成22年3月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1  
 岸記念体育会館内  
 社団法人日本山岳協会  
 電 話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395